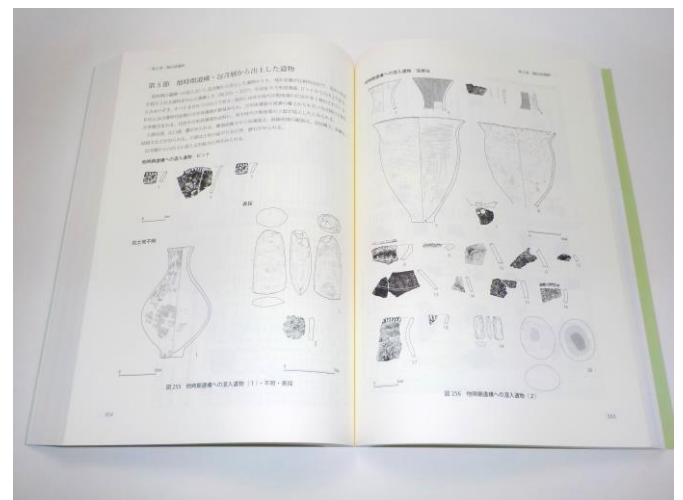


埋蔵文化財調査報告書の刊行

ごん た っ ば ら

『権田原遺跡 II』 弥生時代中期編

港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 49



(写真) 刊行された港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 49『権田原遺跡 II』
A4版、532頁、3,500円(税込)

1980年～89年まで発掘調査が行われた権田原遺跡・新吉田十三塚遺跡・矢東遺跡は港北ニュータウン地域内の遺跡であり、特に弥生時代中期の環濠集落として当初から注目されていました。人々が暮らしていた^{かんこう}堅穴住居のまわりは、幅約2mほどの溝で囲み(環濠)、その外には四角い溝で囲った墓域(方形周溝墓^{ほうけいしゅうこうぼ})がつくられていました。横浜市歴史博物館に隣接して、その一部が整備・保存されている国指定史跡の大塚・歳勝土遺跡をしのぐ、当該地域屈指の大きさの遺跡です。

報告書では、住居や環濠、方形周溝墓などの遺構の説明や図版とともに出土した遺物(土器類・石器類など)の図版や一覧表を掲載しています。また方形周溝墓から出土した副葬品の説明も一覧表や図版等で詳しく紹介しています。付編では権田原遺跡出土土器についての論考も掲載されており、遺跡についての理解を一層深めることができます。

権田原遺跡報告書は、I巻・III巻・IV巻が既刊されていますが、今回のII巻で最終巻となります。このたび刊行したII巻では、権田原遺跡から遺構・遺物の多くが発掘された弥生時代を紹介した、最も中身の厚い1冊となっており、シリーズの集大成ともいえる内容となっています。ぜひお手にとってご覧ください。

○ 目 次

第1章 遺跡の概要

第2章 権田原遺跡

第3章 新吉田十三塚遺跡

第4章 矢束遺跡

第5章 まとめと考察

付編1

権田原遺跡出土土器と鶴見川・早瀬川流域の宮ノ台式土器について

付編2

権田原遺跡出土の「変質ドレライトE」製太形蛤刃石斧について

付編3 権田原遺跡出土の玉類について

権田原遺跡の空撮(北西から)



権田原遺跡FS18号方形周溝墓出土土器一括



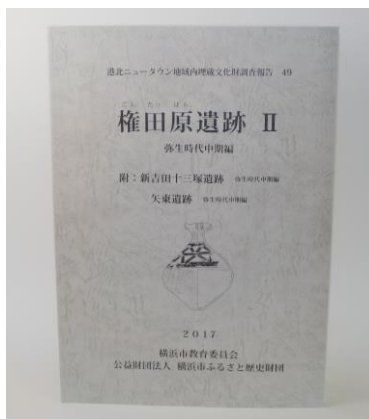
FS18号方形周溝墓より20点以上の壺が出土し、権田原遺跡の中で最多の出土点数。

弥生時代中期後葉の宮ノ台式土器。壺のいくつかには、焼いたあとに孔を開けているものがある。

権田原遺跡復原図(さぶりゆきこ画)



権田原遺跡の西側、高度250m上空から見た弥生時代中期後葉の復原景観図。権田原遺跡の環濠の左手には新吉田十三塚遺跡・矢東遺跡の方形周溝墓、手前には北側貝塚南遺跡の小集落を表す。宮ノ台式期の終わり頃の様相を表し、左手奥には綱崎山遺跡、中央奥にはすでに廃村となった大塚・歳勝土遺跡が見える。



○港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告49

『権田原遺跡Ⅱ』 弥生時代中期編

附：新吉田十三塚遺跡 弥生時代中期編

矢東遺跡 弥生時代中期編

編集：公益財団法人 横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター

発行：横浜市教育委員会

発行日：2017年3月31日

A4版、532頁、3,500円(税込)

* 埋蔵文化財センターで購入いただけるほか、通信販売も行っております。詳細はお問い合わせください。



●既刊報告書のご案内

『権田原遺跡Ⅰ』 旧石器時代～縄文時代編

(2016年3月31日発行)

『権田原遺跡Ⅲ』 弥生時代後期～古墳時代前期編

(2014年9月30日発行)

『権田原遺跡Ⅳ』 古墳時代後期～奈良・平安時代編

(2013年11月30日発行)

あわせてご覧ください

お問合せ

埋蔵文化財センター (編集担当) 浪形・古屋、(広報) 木許 TEL 045-890-1155